

熊本市 感染症発生動向調査 速報



◆インフルエンザの流行に備えましょう◆

●インフルエンザ

インフルエンザウイルス(A, B, Cの3つの型がありますが、流行を起こすのはA型とB型です)による呼吸器感染症です。一般の「かぜ症候群」と比べて全身症状が強くなりやすいことと、重症化しやすいことから注意が必要です。

◆どんな病気？

・症状………突然の38℃以上の高熱、全身のだるさ、頭痛、関節痛、筋肉痛などの全身症状に続いて、呼吸器症状(鼻水、咳、のどの痛みなど)が現れます。消化器症状(腹痛、嘔吐、下痢など)がみられることもあります。



・潜伏期間…1～3日間

・感染経路…患者の咳などのしぶきを吸い込むことによる飛沫感染が主ですが、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染もあります。学校保健安全法における取り扱いでは、原則として、発症したあと5日経過し、かつ解熱したあと2日(幼児は3日)を経過するまで出席停止とされています。

・流行期……毎年11月下旬から12月上旬頃に始まり、翌年の1～3月頃に患者数が増加し、4～5月にかけて減少していきませんが、流行の程度とピークの時期は年によって異なります。

◆かかったらどうすればいいの？

・症状に応じた対症療法のほかに、オセルタミビル(タミフル)、ザナミビル(リレンザ)、ラニナミビル(イナビル)などの抗インフルエンザ薬を使用する場合があります。

・解熱剤(特にアスピリン)は、ライ症候群(急性脳症と肝臓障害)との関連があると言われており、小児への使用は原則禁忌となっています。解熱剤がどうしても必要な場合は、アセトアミノフェンを使用しましょう。

◆予防法は？

・流行期には人混みを避け、外出後は手洗い、うがいなどの一般的な予防方法をしっかり行いましょう。

・インフルエンザワクチン(予防接種)は、重症化や合併症の発生の予防が期待できます。

期 間		平成28年 第44週		平成28年 第45週	
		10/31～11/6		11/7～11/13	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		5	0.20	7	0.28
RSウイルス感染症		11	0.69	10	0.63
咽頭結膜熱(プール熱)		7	0.44	2	0.13
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		17	1.06	26	1.63
感染性胃腸炎		107	6.69	143	8.94
水痘(みずぼうそう)		2	0.13	12	0.75
手足口病		42	2.63	49	3.06
伝染性紅斑(りんご病)		2	0.13	1	0.06
突発性発しん		10	0.63	6	0.38
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		6	0.38	1	0.06
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		18	1.13	20	1.25
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		14	2.80	27	5.40
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		1	0.20	1	0.20
マイコプラズマ肺炎		7	1.40	8	1.60
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	2	0.40